

2017/9/10

柏の景気情報（平成29年8月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成29年8月分）

○ 調査期間 : 平成29年8月29日 ~ 平成29年9月4日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	70	44.9%
建設	44	18	40.9%
製造	33	16	48.5%
卸・小売	43	21	48.8%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成29年8月の調査結果のポイント】

◀業況DIはすべての業種で悪化。先行きは慎重な見方が残りほぼ横ばいの見通し▶

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.8(前月水準▲11.4)となり、マイナス幅が11.4ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲6.2(同△5.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲42.8(同▲28.5)、建設業▲22.2(同▲10.5)、サービス業▲13.3(同▲7.6)である。

【建設業】からは、「高齢者の工事依頼契約をどうしたらいいのかわからないケースが増えてきた。」(一般土木建築工事業)、「売上高は向上しているものの諸経費、材料等の増加がある。」(電気工事業)、「今年に入って売上が伸びない。かろうじて前年の売上は維持出来ているもの一向に良くなる気配が無い。一時安定したかに思えた施工単価が現在見積り中案件では単価が下落している。」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「先行きの安定が見えず、設備投資も従業員募集も一歩足が前に進まない。」(印刷業)、「中国の設備投資、半導体製造設備、自動車製造設備の増加により、電気部品だけでなくメカ部品にまで品薄状態が波及。部品入手が続いており機械納期に大きな影響を及ぼしている。」(その他の機械・同部品製造業)、「景気好転が史上2番目の長さになっていると報道されているが、小企業の製造業はその影響が感じられない。大企業からの要望はコストダウンの協力ばかり」(その他の金属製品製造業)、「材料値上げのアナウンスが出て来た。」(紙製容器製造業)、「今期に入って業況は極端に低迷したままである。」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「そごう跡地未決定のため、東口全体に客足鈍く駐車場も遠いなど苦情があり、今後もより鈍くなりそう。そごう問題解決あれば改善の余地あり。」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「近くのショッピングモールのテナントがますます歯抜けになっている。」(書籍・文房具小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「休日を増やし毎日曜日と長期に盆休みを取った影響で売上・利益減。8月末から来客数増加している。」(その他の飲食料点小売業)、「北朝鮮絡みで、韓国だけでなくグアムを敬遠されるお客様も。団体旅行の間際申込みが増えているが、インバウンド客の予約は早く、そちらに航空座席や宿泊が押さえられ、時に手配困難なことがある。」(旅行業)、「一般顧客からの問い合わせ件数が安定している。ただ購入までの時間が長く、価格に対してもシビアになっている。売り物件依頼も相続案件等が多く、駅に近い物件等は短期間で成約になっている。」(不動産管理業)、「TX沿線の建築ラッシュが目に見えて凄。急激に建物が増えて需給のバランスが心配。」(不動産賃貸・管理業)、「上期は例年同様で下打ち状態、下期は設備投資も増える模様だが、競合社も増加で安堵できず。来年春施工する病院保険点数見直しのシステム改修が50施設分ある。寝る時間も休みも取れない。」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎天候不順

各業種より、「天候不順だったため、前年売上の半分となった。」(その他の職別工事業)、「流動的な世界情勢、天候による自然破壊の影響が大きく安定した受注は望めない。」(印刷業)、「天候不順、冷夏気味のせい、例年より秋物の立上りが早い。秋物の納品も早く感じる」(婦人・子供服小売業)、「雨日が連続し気温も低下の中、衣料品は夏物処分品の売上低迷も店在庫を抑え粗利益をキープできた。食品は天候悪化で野菜不足となり仕入原価の高騰となったが、生活基本商品である日用雑貨、食品などの客数が増える傾向となり低迷していた売上も回復傾向となった。」(その他の各種商品小売業)、「毎日の雨で客足が遠のいた。雨続きで夏物の売上に直接響いた。」(その他の各種商品小売業)、「天候不良により冷蔵類の売上が前年比割れに。イベント等にも悪影響になる。」(菓子・パン小売業)との声寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「先行きは人手不足が心配。」(電気工事業)、「9月決算、年末に加え工期が迫り人手不足となりそう。高齢化に依る人手不足に加え、現場の早朝、残業禁止のため忙しさは倍増しそう」(その他の職別工事業)、「受注増加に対する人的資源が追いつかない。求人活動してもなかなか応募者が出ない。」(一般産業用機械・装置製造業)、「パートの応募者が皆無のため社員の採用で対処しているため人件費と法定福利費等の負担増。このため今後の業績がかなり厳しくなり、最悪は赤字覚悟。」(その他の飲食料点小売業)との声寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
3月	▲13.3	▲10.0	△5.8	▲50.0	△12.5
4月	▲20.5	▲17.6	▲11.1	▲41.6	±0.0
5月	▲23.9	▲27.7	▲22.2	▲35.0	▲6.6
6月	▲16.9	▲18.7	△5.8	▲38.0	▲11.7
7月	▲11.4	▲10.5	△5.8	▲28.5	▲7.6
8月	▲22.8	▲22.2	▲6.2	▲42.8	▲13.3
見通し	▲10.0	▲5.5	△12.5	▲33.3	▲6.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成28年8月の業況についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.8(前月水準▲11.4)となり、マイナス幅が11.4ポイント拡大した。

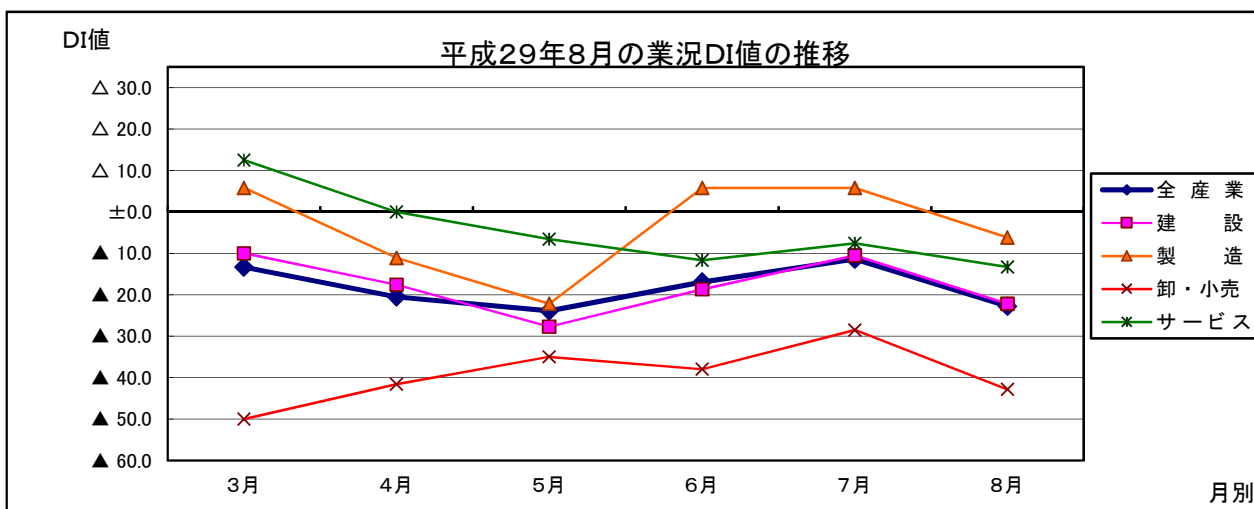
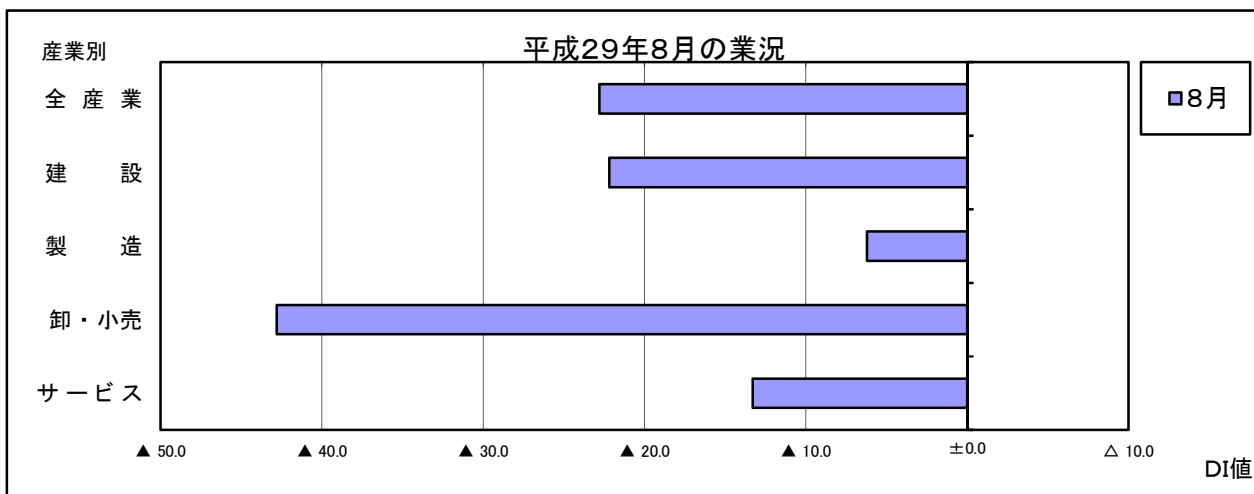
業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲6.2(同△5.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲42.8(同▲28.5)、建設業▲22.2(同▲10.5)、サービス業▲13.3(同▲7.6)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.0(前月水準▲12.8)となり、マイナス幅が2.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△12.5(同△11.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲5.5(同▲15.7)、サービス業▲6.6(同▲15.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲33.3(同▲28.5)である。

平成29年8月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲13.3	▲20.5	▲23.9	▲16.9	▲11.4	▲22.8	▲10.0(▲12.8)
建設	▲10.0	▲17.6	▲27.7	▲18.7	▲10.5	▲22.2	▲5.5(▲15.7)
製造	△5.8	▲11.1	▲22.2	△5.8	△5.8	▲6.2	△12.5(△11.7)
卸・小売	▲50.0	▲41.6	▲35.0	▲38.0	▲28.5	▲42.8	▲33.3(▲28.5)
サービス	△12.5	±0.0	▲6.6	▲11.7	▲7.6	▲13.3	▲6.6(▲15.3)



【平成29年8月の売上についての状況】

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.8(同▲15.7)となり、マイナス幅が2.9ポイント縮小した。

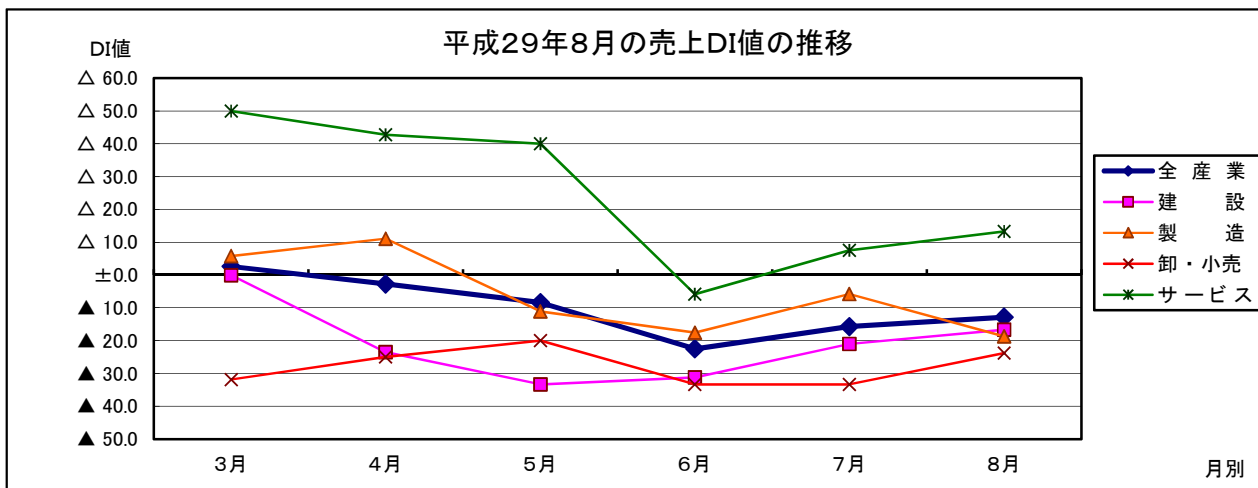
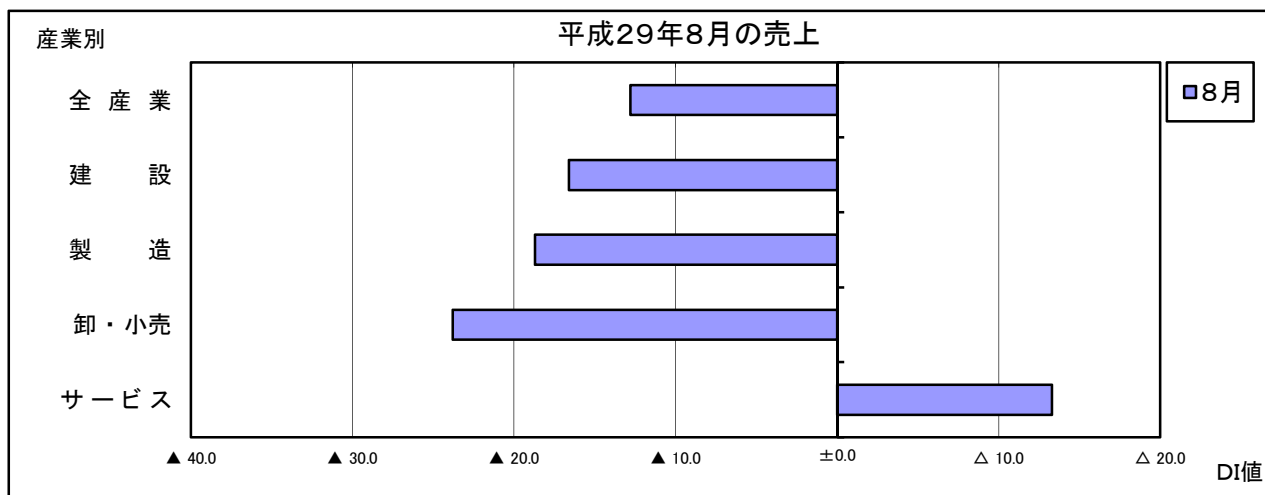
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△7.6(同△13.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲23.8)、建設業▲16.6(同▲21.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲18.7(同▲5.8)である。

○向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、△4.2(前月水準▲10.0)となり、プラス幅は14.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△18.7(同△5.8)、建設業△33.3(同△25.0)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△20.0(同▲11.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲42.8(同▲28.5)である。

平成29年8月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	△2.6	▲2.7	▲8.4	▲22.5	▲15.7	▲12.8	△4.2(▲10.0)
建設	±0.0	▲23.5	▲33.3	▲31.2	▲21.0	▲16.6	△33.3(△25.0)
製造	△5.8	△11.1	▲11.1	▲17.6	▲5.8	▲18.7	△18.7(△5.8)
卸・小売	▲31.8	▲25.0	▲20.0	▲33.3	▲33.3	▲23.8	▲42.8(▲28.5)
サービス	△50.0	△42.8	△40.0	▲5.8	△7.6	△13.3	△20.0(▲11.7)



【平成29年8月の採算についての状況】

○ 8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.0(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅は10.0ポイント拡大した。

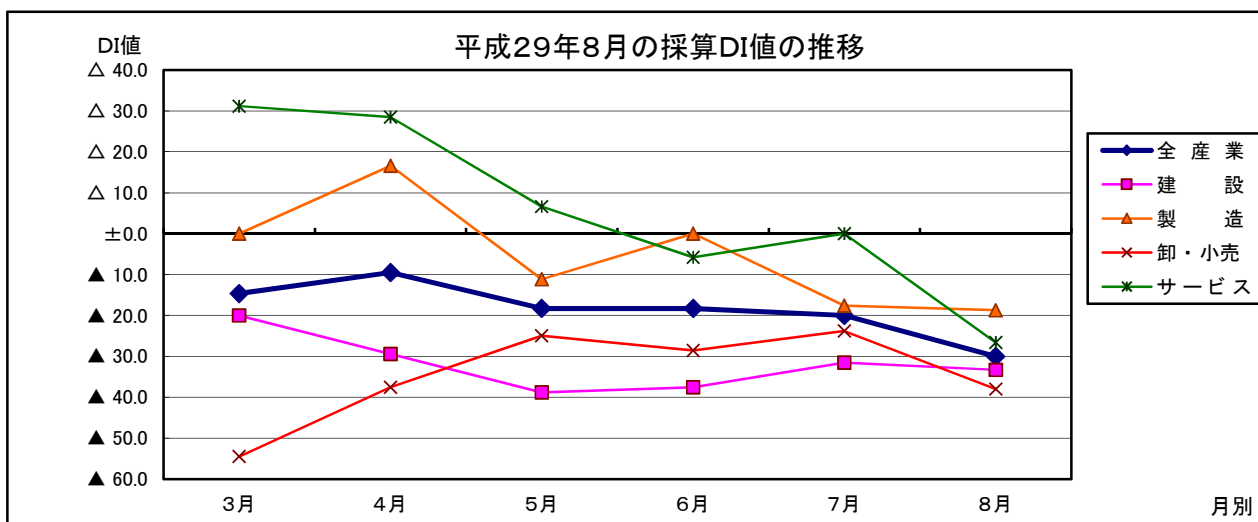
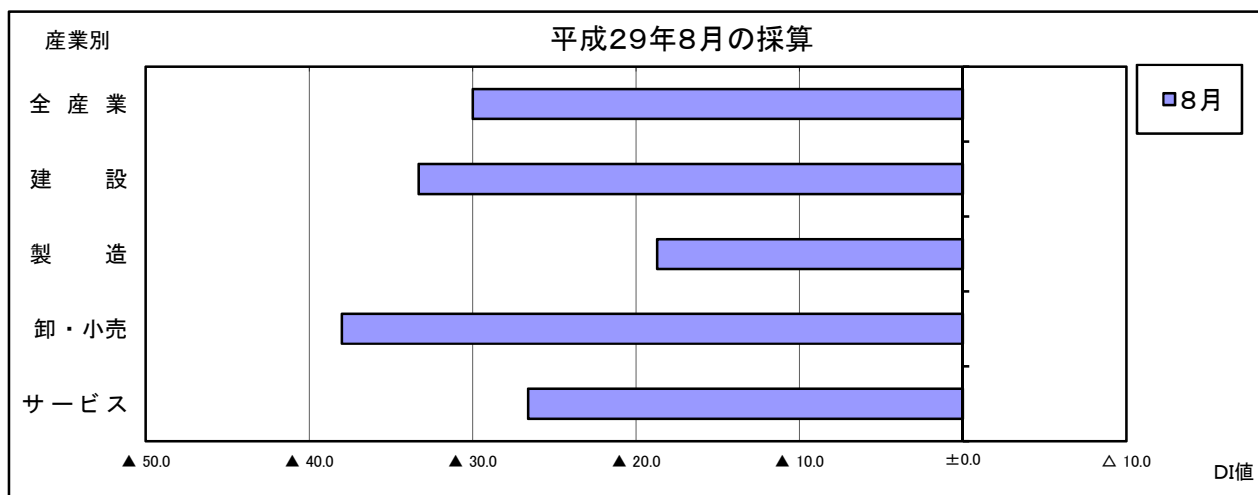
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲26.6(同±0.0)、卸小売業▲38.0(同▲23.8)、建設業▲33.3(同▲31.5)、製造業▲18.7(同▲17.6)である。

○ 向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.5(前月水準▲20.0)であり、マイナス幅が11.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△11.1(同△6.2)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△6.2(同▲5.8)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同▲5.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲42.8(同▲38.0)である。

平成29年8月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲14.6	▲9.5	▲18.3	▲18.3	▲20.0	▲30.0	▲8.5(▲20.0)
建設	▲20.0	▲29.4	▲38.8	▲37.5	▲31.5	▲33.3	△11.1(△6.2)
製造	±0.0	△16.6	▲11.1	±0.0	▲17.6	▲18.7	△6.2(▲5.8)
卸・小売	▲54.5	▲37.5	▲25.0	▲28.5	▲23.8	▲38.0	▲42.8(▲38.0)
サービス	△31.2	△28.5	△6.6	▲5.8	±0.0	▲26.6	±0.0(▲5.8)



【平成29年8月の仕入単価についての状況】

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.4(前月水準▲28.5)となり、マイナス幅が7.1ポイント拡大した。

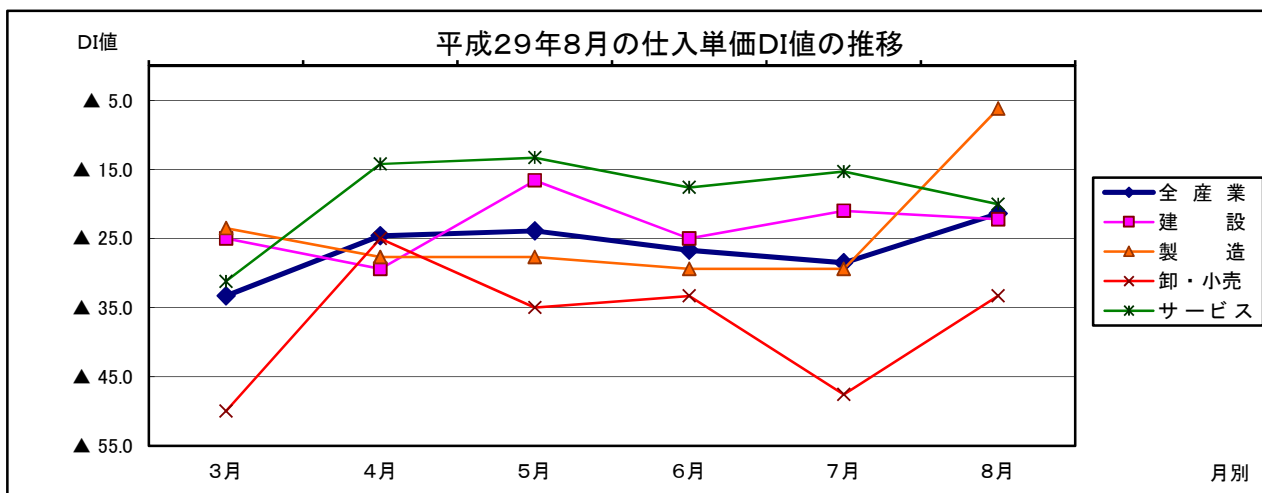
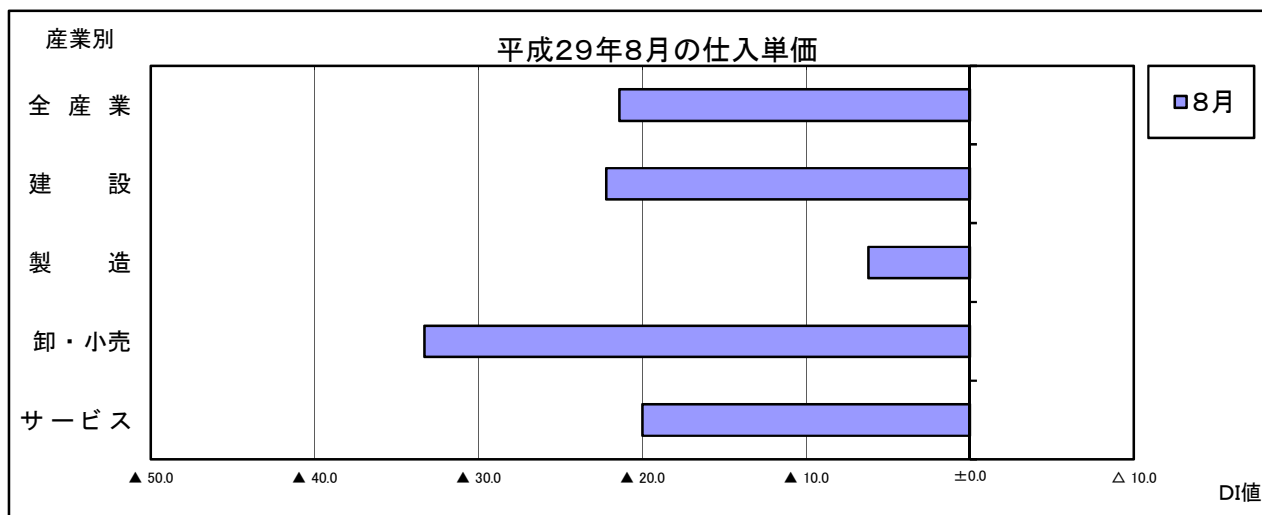
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲6.2(同▲29.4)、卸小売業▲33.3(同▲47.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20.0(同▲15.3)、建設業▲22.2(同▲21.0)である。

○向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.0(前月水準▲28.5)となり、マイナス幅が8.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲11.1(同▲26.3)、製造業▲12.5(同▲23.5)、卸小売業▲42.8(同▲42.8)、サービス業▲13.3(同▲15.3)である。

平成29年8月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲33.3	▲24.6	▲23.9	▲26.7	▲28.5	▲21.4	▲20.0(▲28.5)
建設	▲25.0	▲29.4	▲16.6	▲25.0	▲21.0	▲22.2	▲11.1(▲26.3)
製造	▲23.5	▲27.7	▲27.7	▲29.4	▲29.4	▲6.2	▲12.5(▲23.5)
卸・小売	▲50.0	▲25.0	▲35.0	▲33.3	▲47.6	▲33.3	▲38.0(▲42.8)
サービス	▲31.2	▲14.2	▲13.3	▲17.6	▲15.3	▲20.0	▲13.3(▲15.3)



【平成29年8月の従業員についての状況】

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△12.8(前月水準△18.5)となり、プラス幅が5.7ポイント縮小した。

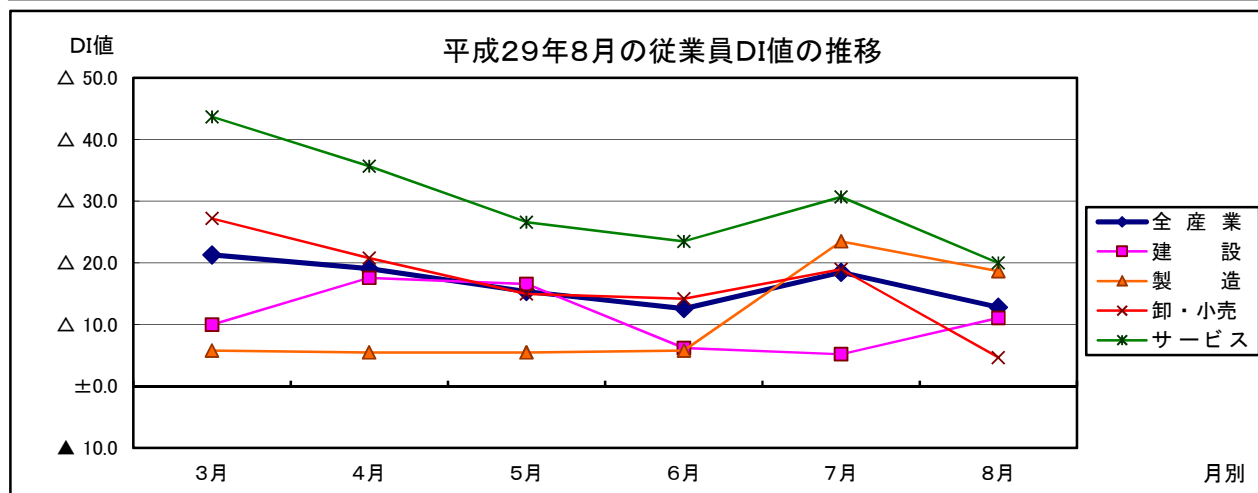
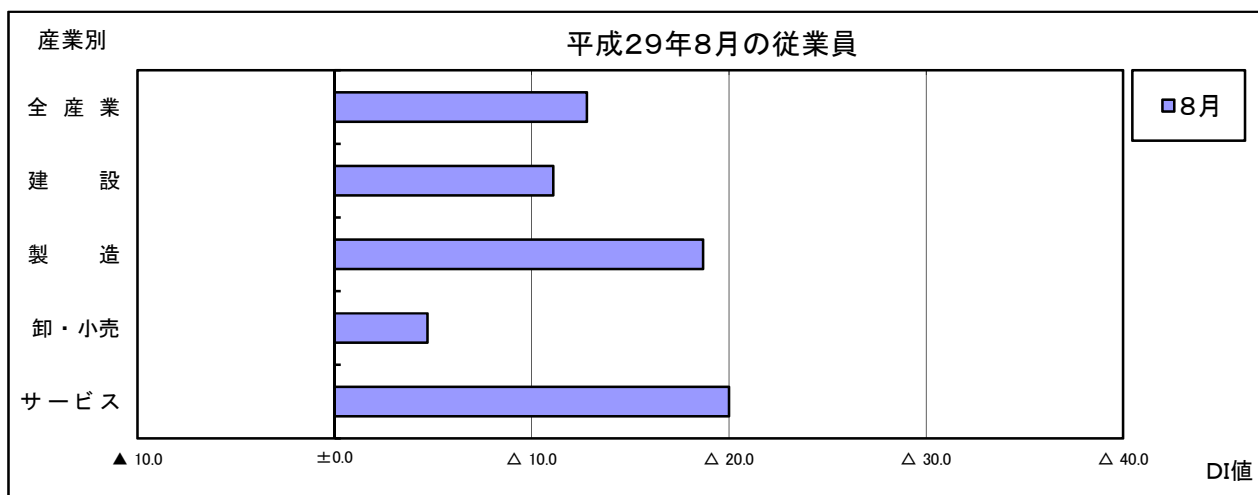
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△11.1(同△5.2)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業△4.7(同△19.0)、サービス業△20.0(同△30.7)、製造業△18.7(同△23.5)である。

○向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、△17.1(前月水準△21.4)であり、プラス幅が4.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△22.2(同△15.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△25.0(同△35.2)、卸小売業△4.7(同△14.2)、サービス業△20.0(同△23.0)である。

平成29年8月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	△21.3	△19.1	△15.4	△12.6	△18.5	△12.8	△17.1(△21.4)
建設	△10.0	△17.6	△16.6	△6.2	△5.2	△11.1	△22.2(△15.7)
製造	△5.8	△5.5	△5.5	△5.8	△23.5	△18.7	△25.0(△35.2)
卸・小売	△27.2	△20.8	△15.0	△14.2	△19.0	△4.7	△4.7(△14.2)
サービス	△43.7	△35.7	△26.6	△23.5	△30.7	△20.0	△20.0(△23.0)



【平成29年8月の資金繰りについての状況】

○8月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.7(前月水準▲10.0)となり、マイナス幅が5.7ポイント拡大した。

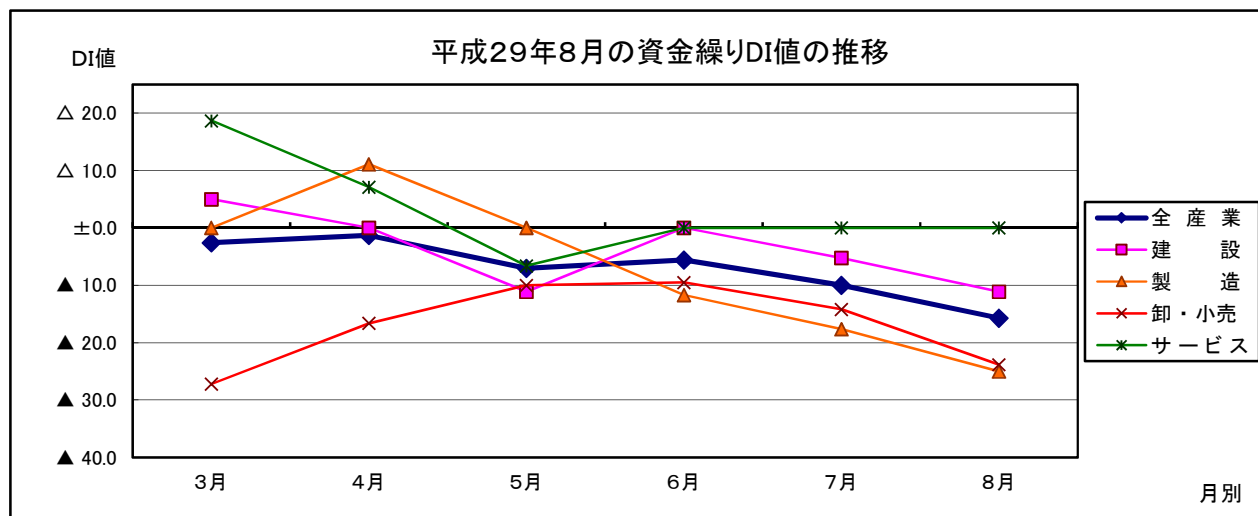
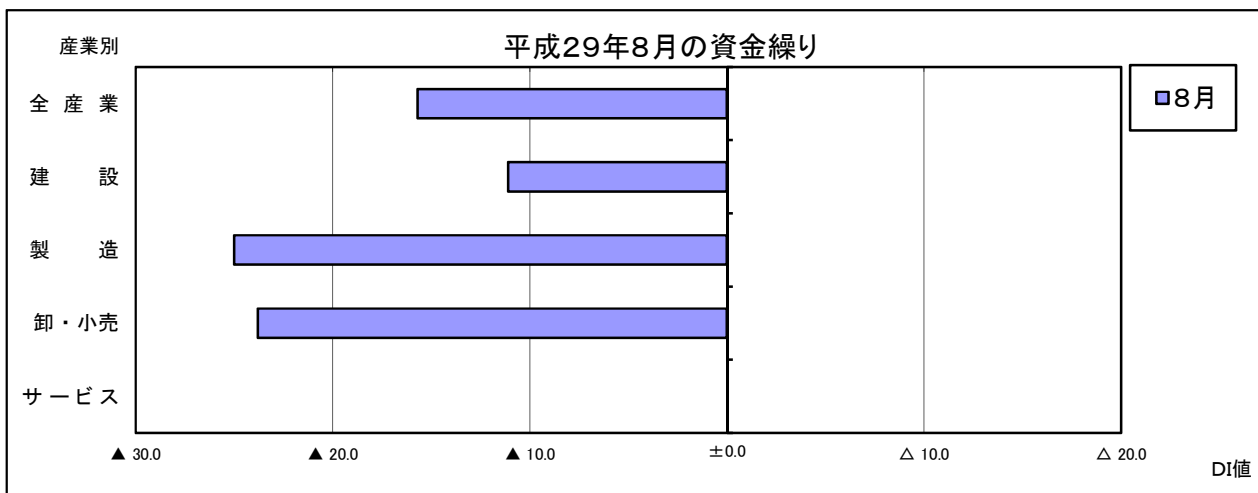
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲23.8(同▲14.2)、製造業▲25.0(同▲17.6)、建設業▲11.1(同▲5.2)である。

○向こう3ヶ月(9月から11月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.5(前月水準▲8.5)となり、変わらない見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同▲5.2)である。変らない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)、製造業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲28.5(同▲23.8)である。

平成29年8月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成29年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9月~11月(8月~10月)
全産業	▲2.6	▲1.3	▲7.0	▲5.6	▲10.0	▲15.7	▲8.5(▲8.5)
建設	△5.0	±0.0	▲11.1	±0.0	▲5.2	▲11.1	±0.0(▲5.2)
製造	±0.0	△11.1	±0.0	▲11.7	▲17.6	▲25.0	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲27.2	▲16.6	▲10.0	▲9.5	▲14.2	▲23.8	▲28.5(▲23.8)
サービス	△18.7	△7.1	▲6.6	±0.0	±0.0	±0.0	±0.0(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 12.8	△ 4.2	▲ 30.0	▲ 8.5	▲ 21.4	▲ 20.0	△ 12.8	△ 17.1
建設	▲ 16.6	△ 33.3	▲ 33.3	△ 11.1	▲ 22.2	▲ 11.1	△ 11.1	△ 22.2
製造	▲ 18.7	△ 18.7	▲ 18.7	△ 6.2	▲ 6.2	▲ 12.5	△ 18.7	△ 25.0
卸・小売	▲ 23.8	▲ 42.8	▲ 38.0	▲ 42.8	▲ 33.3	▲ 38.0	△ 4.7	△ 4.7
サービス	△ 13.3	△ 20.0	▲ 26.6	±0.0	▲ 20.0	▲ 13.3	△ 20.0	△ 20.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 22.8	▲ 10.0	▲ 15.7	▲ 8.5
建設	▲ 22.2	▲ 5.5	▲ 11.1	±0.0
製造	▲ 6.2	△ 12.5	▲ 25.0	±0.0
卸・小売	▲ 42.8	▲ 33.3	▲ 23.8	▲ 28.5
サービス	▲ 13.3	▲ 6.6	±0.0	±0.0

【平成29年8月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピックス	業種
建設	高齢者からの工事依頼の際の契約をどうしたらいいのか迷うケースが増えてきた	高齢者契約	一般土木建築工事業
	売上高は向上しているものの諸経費、材料等の増加がある。先行きは人手不足が心配。	売上増加 仕入増加 人手不足	電気工事業
	今年に入ってから売上が伸びない。かろうじて前年の売上は維持出来ているもの一向に良くなる気配が無い。8月は天候不順だったため、前年売上の半分となった。9月決算、年末に加え工期が迫り人手不足となりそう。高齢化に依る人手不足に加え、現場の早朝、残業禁止のため忙しさは倍増しそう。一時安定したかに思えた施工単価が現在見積り中案件では単価が下落している	売上前年比同 先行き不安 天候不順 売上前年同月比減 人手不足 単価下落	その他の職別工事業
	サッカーワールドカップ本大会出場が決まった時のように人に感動を与えられる仕事が出来ればいいなど。日々の仕事に精進します。	仕事精進	内装工事業
製造業	先行きの安定が見えず、設備投資も従業員の募集も一歩足が前に進まない。	先行き不安 設備投資不調 人手不足	印刷業
	中国の設備投資、半導体製造設備、自動車製造設備の増加により、電気部品だけでなくメカ部品にまで品薄状態が波及。部品入手が続いており機械納期に大きな影響を及ぼしている。	海外設備投資増加 仕入減少 納期影響	その他の機械・同部品製造業
	景気の好転が史上2番目の長さになっていると報道されていますが、小企業の製造業では、状況は従来通りでその影響は感じられません。大企業からの要望はコストダウンの協力ばかりです。	好転影響なし コストダウン	その他の金属製品製造業
	材料(段ボールシート)の値上げのアナウンスが出て来ました。10月頃になるかな。	仕入値上	紙製容器製造業
	今期に入ってから業況は極端に低迷したままである。流動的な世界情勢、天候による自然破壊の影響が大きく安定した受注は望めない。	業況低迷 世界情勢 天候不順	印刷業
	受注増加に対する人的資源が追いつかない。求人活動してもなかなか応募者が出ない。	受注増加 人手不足	一般産業用機械・装置製造業
卸小売	例年より秋物の立上りが早い。天候不順、冷夏気味のせいもあるかも。秋物の納品も早く感じる。	季節商品 天候不順	婦人・子供服小売業
	そごう跡地未決定のため、東口全体に客足鈍く駐車場も遠いなど苦情あり。今後より鈍くなりそうです。そごう問題解決あれば改善の余地あり。	そごう問題	時計・眼鏡・光学機械小売業
	8月に入り雨日が連続し気温も低下の中、衣料品は夏物処分品の売上低迷も店在庫を抑え粗利益をキープできた。食品は天候悪化で野菜不足となり仕入原価の高騰となったが、生活基本商品である日用雑貨、食品などの客数が増える傾向となり低迷していた売上も回復傾向となった。	天納不順 季節商品 仕入単価増 売上回復	その他の各種商品小売業
	近くのショッピングモールのテナントがますます歯抜けになっている。	空き店舗	書籍・文房具小売業
	毎日の雨で客足が遠のいた。雨続きで夏物の売上に直接響いた。	天候不順 季節商品	その他の各種商品小売業
	8月の天候不良により冷菓類の売上が前年比割れに。イベント等にも悪影響になる。	天候不順 季節商品	菓子・パン小売業
サービス業	パートの応募者が皆無のため社員の採用で対処しているため人件費と法定福利費等の負担増。このため今後の業績がかなり厳しくなる。最悪は赤字覚悟。8月は休日を増やし毎日曜日と長期に盆休み(5日)を取った影響で売上、利益減。8月末から来客数増加している。	人手不足 人件費増 売上減少 利益減少	その他の飲食料点小売業
	北朝鮮絡みで、韓国だけでなくグアムを敬遠されるお客様も。団体旅行の間際申込みが増えていますが、インバウンド客の予約は早く、そちらに航空座席や宿泊が押さえられ、時に手配困難なことがある。	世界情勢 団体好調 インバウンド	旅行業
	一般の顧客から問い合わせ件数が安定しています。ただ購入に至るまでの時間が長く、価格に対してもシビアになっています。売り物件依頼も相続案件等が多くなっています。駅に近い物件等は短期間で成約になっています。	不動産好調	不動産管理業
	竹が生える画が如くTX沿線の建築ラッシュが目に見えて凄。急激に建物が増えて需給のバランスが心配な昨今です。	TX沿線開発 不動産好調	不動産賃貸・管理業
	上期は例年同様で下打ち状態、下期は設備投資も増える模様です。ただ、競合社も増加で安堵できず。病院展開を6年間勤めてきて、来年春施工する保険点数の見直しのシステム改修が50施設分ある。寝る時間も休みも取れない。	業況低迷 設備投資増加 競合増加 受注増加	ソフトウェア業

平成29年8月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.8に対し、「CCI-LOBO」が▲18.2で柏の方がマイナス幅が4.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.8に対し、「CCI-LOBO」が▲13.4で柏の方がマイナス幅が0.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業・サービス業であり、サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業であり、製造業では、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.0に対し、「CCI-LOBO」が▲15.3で柏の方がマイナス幅が14.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が悪い業種はすべてで、建設業・サービス業・製造業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.4に対し、「CCI-LOBO」が▲31.4で柏の方がマイナス幅が10.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業であり、製造業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△12.8に対し、「CCI-LOBO」が△23.6で柏の方がプラス幅が10.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業・サービス業であり、建設業・卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.7に対し、「CCI-LOBO」が▲8.2で柏の方がマイナス幅が7.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業であり、製造業では10ポイント以上悪い。

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(8月速報)

調査期間：平成29年8月13日～22日

調査対象：全国の423商工会議所が3798企業
にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、足踏み。先行きは慎重な見方残るも、緩やかな回復を見込む

8月の全産業合計の業況DIは、▲18.2と、前月から▲2.1ポイントの悪化。関東を中心とした記録的な長雨に伴う客足の減少や、農産物の不安定な出荷から、サービス業や卸売業、小売業の業況感が押し下げられた。また、人手不足の影響拡大や消費者の節約志向を指摘する声も多い。他方、電子部品や自動車関連の生産や、夏休みのインバウンド需要が好調に推移したほか、建設・設備投資の堅調な動きも続いている。中小企業の景況感は総じてみれば緩やかな回復基調が続くものの、足踏み状況となっている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲16.4（今月比+1.8ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。輸出や設備投資の堅調な推移、インバウンドを含む観光需要の拡大に加え、公共工事の増加などへの期待感が伺える。他方、深刻な人手不足の影響拡大や、消費者の節約志向、運送費・原材料費の

上昇、地政学的リスクなどを懸念する声が多く、中小企業においては先行きへの慎重な見方も続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業でほぼ横ばい、製造業で改善。その他の3業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「賃金など労働条件の改善を図っているものの、人手不足が深刻で、受注調整をせざるを得ない。人件費の上昇に伴い採算も圧迫されている」（土木工事業）、「製造ラインの設置・改修など、得意先の設備投資が好調なため、売上は改善した」（一般工事業）

【製造業】「主要取引先である自動車・航空機業界からの発注が多く、売上は堅調。しかし、北朝鮮情勢を始めとした地政学的リスクの高まりが景気に悪影響を及ぼすのではないかと懸念している」（自動車部品等製造業）、「不漁による原材料の供給

不足で、売上が低迷している。原材料価格の上昇に伴い、利益の確保も難しくなっているため、今後は価格転嫁交渉を進め、改善を図る」（水産食料品製造業）

【卸売業】「台風や長雨による日照不足で、夏野菜を中心に青果物が品薄状態となっており、売上は悪化した」（農産物卸売業）、「民間の設備投資や住宅着工が増加したことで、取引先の建設業からの受注が伸び、売上は改善した。だが、人件費や運送費の上昇に伴い、収益率は低下している」（建設資材卸売業）

【小売業】「主力となる衣料品の売れ行きが前年に届かなかったことに加え、雨天により屋外のビアガーデンを営業できない日が多く、売上は悪化した」（百貨店）、「アジア系のみならず欧米系の訪日外国人旅行者の来店数が増加しており、化粧品、医薬品、日用品の売上が伸びている」（医薬品等小売業）

【サービス業】「雨天の日が多く、地域の夏祭りの日も天候に恵まれなかったため、前年に比べ大幅に売上が悪化した。特に生ビールなど飲料の売れ行きが鈍かった」（飲食

業）、「夏休みシーズンで外国人旅行者客数が増加傾向にあるほか、客室をリニューアルした効果もあり、全体の客数は増加した。ただし、素泊まり客が多く、単価は減少したことから売上の増加幅は大きくない」（宿泊業）、「人手不足により外注費の負担が重くなっている中、秋からさらに最低賃金が引き上げられれば、採算が大きく悪化する」（ビルメンテナンス業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
3月	▲20.1	▲9.6	▲12.8	▲24.2	▲40.5	▲14.7
4月	▲17.3	▲10.6	▲11.3	▲18.9	▲33.0	▲12.5
5月	▲16.2	▲15.8	▲12.2	▲12.0	▲36.5	▲5.4
6月	▲14.5	▲14.3	▲8.6	▲8.6	▲32.1	▲8.8
7月	▲16.1	▲13.3	▲9.5	▲11.9	▲33.9	▲11.7
8月	▲18.2	▲14.2	▲6.9	▲17.0	▲36.3	▲17.2
見通し	▲16.4	▲10.1	▲7.2	▲19.4	▲32.5	▲14.8

柏の景気情報

(8月の調査結果のポイント)

調査期間：平成29年8月29日～9月4日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数70件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
3月	▲13.3	▲10.0	△5.8	▲50.0	△12.5
4月	▲20.5	▲17.6	▲11.1	▲41.6	±0.0
5月	▲23.9	▲27.7	▲22.2	▲35.0	▲6.6
6月	▲16.9	▲18.7	△5.8	▲38.0	▲11.7
7月	▲11.4	▲10.5	△5.8	▲28.5	▲7.6
8月	▲22.8	▲22.2	▲6.2	▲42.8	▲13.3
見通し	▲10.0	▲5.5	△12.5	▲33.3	▲6.6

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iはすべての業種で悪化。先行きは慎重な見方が残りほぼ横ばいの見通し

8月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じは、▲22.8(前月水準▲11.4)となり、マイナス幅が11.4ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲6.2(同△5.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲42.8(同▲28.5)、建設業▲2

2.2(同▲10.5)、サービス業▲13.3(同▲7.6)である。

【建設業】からは、「高齢者の工事依頼契約をどうしたらいいのか迷うケースが増えてきた」「一般土木建築工事業」、「売上高は向上しているものの諸経費、材料等の増加がある」(電気工事業)、「今年に入って売上が伸びない。かろうじて前年の売上は維持出来ているもの

の一向に良くなる気配が無い。一時安定したかと思えた施工単価が現在見積り中案件では単価が下落している」(その他の職別工事業)など

のコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「先行きの安定が見えず、設備投資も従業員募集も一歩足が前に進まない」(印刷業)、「中国の設備投資、半導体製造設備、自動車製造設備の増加により、電気部品だけでなくメ

カ部品にまで品薄状態が波及。部品入手が続いており機械納期に大きな影響を及ぼしている」(その他の機械・同部品製造業)、「景気好転が史上2番目の長さになっ

ていると報道されているが、小企業の製造業はその影響が感じられない。大企業からの要望はコストダウンの協力ばかり」(その他の金属製品製造業)、「材料値上げの

アナウンスが出て来た」(紙製容器製造業)、「今期に入って業況は極端に低迷したままである」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「さう跡地未決定のため、東口全体に客足鈍く駐車場も遠いなど苦情があり、今後より鈍くなりそう。さう問題解決あれば改善の余地あり」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「近くのショッピングモールのテナントがますます歯抜けになつている」(書籍・文房具小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「休日を増やし毎日曜日と長期に盆休みを取った影響で売上・利益減。8月末から来客数増加している」(その他の飲食料品小売業)、「北朝鮮絡みで、韓国だけでなくグアムを敬遠されるお客様も。団体旅行の間際申込みが増えている

が、インバウンド客の予約は早く、そちらに航空座席や宿泊が押さえられ、時に手配困難なことがある」(旅行業)、「一般顧客からの問い合わせ件数が安定している。ただ購入までの時間が長く、価格に

対してもシビアになつている。売り物件依頼も相続案件等が多く、駅に近い物件等は短期間で成約になつている」(不動産管理業)、「TX沿線

の建築ラッシュが目に見えて凄い。急激に建物が増えて需給のバランスが心配」(不動産賃貸・管理業)、「上期は例年同様で下打ち状態。下期は設備投資も増える模様だが、競合社も増加で安堵でき

ず。来年春季施工する病院保険点数見直しのシステム改修が50施設分ある。寝る時間も休みも取れない」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

8月の景気キーワード

天候不順

各業種より、「天候不順だったため、前年売上の半分と

なった」(その他の職別工事業)、「流動的な世界情勢、天候による自然破壊の影響が大きく安定した受注は望めない」(印刷業)、「天候不順、冷夏気味のせい、例年より秋物の立上りが早い。秋物の納品も早く感じる」(婦人・子供服小売業)、「雨日が連続し気温も低下の中、衣料品は夏物処分品の売上低迷も店在庫を抑え粗利益をキープできた。食品は天候悪化で野菜不足となり仕入原価の高騰となったが、生活基本商品である日用雑貨、食品などの客数が増える傾向となり低迷していた売上も回復傾向となった」(その他の各種商品小売業)、「毎日の雨で客足が遠のいた。雨続きで

夏物の売上に直接響いた」(その他の各種商品小売業)、「天候不良により冷菓類の売上が前年比割れに。イベント等にも悪影響になる」(菓子・パン小売業)との声が寄せられた。

人手不足

各業種より、「先行きは人手不足が心配」(電気工事業)、「9月決算、年末に加え工期が迫り人手不足となりそう。高齢化に依る人手不足に加え、現場の早朝、残業禁止のため忙しさは倍増しそう」(その他の職別工事業)、「受注増加に対する人的資源が追いつかない。求人活動してもなかなか応募者が出ない」(産業用機械・装置製造業)、「パート応募者が皆無のため社員採用で対処しているため人件費と法定福利費等の負担増。このため今後の業績がかなり厳しくなり、最悪は赤字覚悟」(その他の飲食料品小売業)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-TOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲22.8に対し、「CCI-TOBO」が▲18.2で柏の方がマイナス幅が4.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業である。